

## 保護者の方からのメッセージ ～小学部低学年編～

## 「金曜日の夕方」

私が毎週金曜日の夕方、決まって子供たちに聞くのが「宿題終わった？」です。仕事を持つ親としては「やっと週末だ！」とのんびりしたい所ですが「まだ全部終わってない。分からない所がある。」と返事が返ってきます。「もう、なんでもっと早くに言わないの！」とイライラしながら宿題を手伝います。そんな事の繰り返しで何度“退学届”をプリントアウトしようと考えたでしょう。

でも毎日の生活の中で子供たちが折々に見せる日本語への興味や使ってみようとする態度が私の気持ちを軟化させてくれます。母の日や誕生日のカードに書かれたちょっと不器用な“おかあさん”の文字、日本のアニメの主題歌を日本語で歌い出した時、DS ゲームを日本語版で挑戦している時、里帰りした際で一生懸命におじいちゃんへ日本語を話しかける時、文化祭や運動会での楽しそうな様子、授業中にちょっと心配でドアから覗いて見えた大きい机にじっと座って先生の話の聞いている姿。現地校に通っているだけではきっと経験する事のない生活をしている子供たちを見ていると「この子供たちのやっている事は無駄ではないのかな？」と思います。

今週の金曜日私はきっと同じ事を子どもたちに聞くでしょう。そしてきっと同じ返事が返ってくると思います。でもいつかきっと日本語学校で経験した事がきっと役に立つ日が来ると信じて日本人の母親としてサポートして行きたいと思っています。



## 「素敵な場所」

1年生に進学する間近に年長の保護者の間では、これから宿題をこなしていかななくてはならないとか、恐れる漢字テストが待ち受けている、もしかして現地校と日本語学校の両立は難しく、日本語学校をやめなくてはならないかもなど、数々の不安について話し合っていた事を覚えています。しかし、2年生の3学期までやってきた今、なんだかんだ言って続けてきた2年間は、あっという間でした。

夫はアメリカ人であり、住んでいる地域にはほとんど日本人がいなく、おまけに私は月から金は働いている。このような状況で、娘は週6日間、ほとんど英語の環境で生活し、唯一土曜日に、日本語にしっかりと触れるありがたいチャンスがあるわけです。家では、私が日本語で話しかけてもほとんど英語で答えるのに、土曜日の朝は、校長先生に学校前でご挨拶から始まり、知り合いのお母さん達と話したり、先生のお話を聞いたり、友達と話したりで、帰りの車の中では少し日本語で話してくれるようになります。日常聞く事ができる日本語は、母親の日本語だけという娘にとって、日本語学校は、母親以外の日本語を聞ける場所であり、日本語での会話の受け答えを聞くことができる大切な環境です。



宿題は、1人ではこなせないのにつきっきりですが、毎日少しずつやれば、金

曜日の夜には終わっています。時々体調を崩したり、現地校の夜の行事があったりすると、すべては終わらない事もありましたが、日本語学校の先生達の多くは、先生自身が保護者である事も多く、私達のような家族の現状を大変良く理解してもらっているように感じます。漢字テストで良い点が取れなくても、もう一度何回か練習して、次の週に提出すれば、努力する事を前向きに褒めてくれました。又、1、2年生の先生は、本を読む事を表に書き入れる事を薦めてくれているので、毎週図書館で本を借り、寝る前に必ず読み聞かせをしました。このような配慮のおかげで、娘は一度も日本語学校に行きたくないとは言いませんでした。

又、日本語学校の文化的活動、入学式、運動会、体育的行事、授業参観、PTA 主催の文化祭や、タレントショーなど、勉強以外の行事も一年間に程よいタイミングでやってくるので、娘は、日本語学校はとても楽しいところであり、自分の文化や言葉を学べる本当に素敵な場所だと思っています。これから待ち受ける3年生というハードルも、このようなすばらしい環境なら、なんとかやっつけていけるのではないかなと思っています。

